

# 正 誤 表

## 第 3 編 担当WG名:[ WG 4 ]

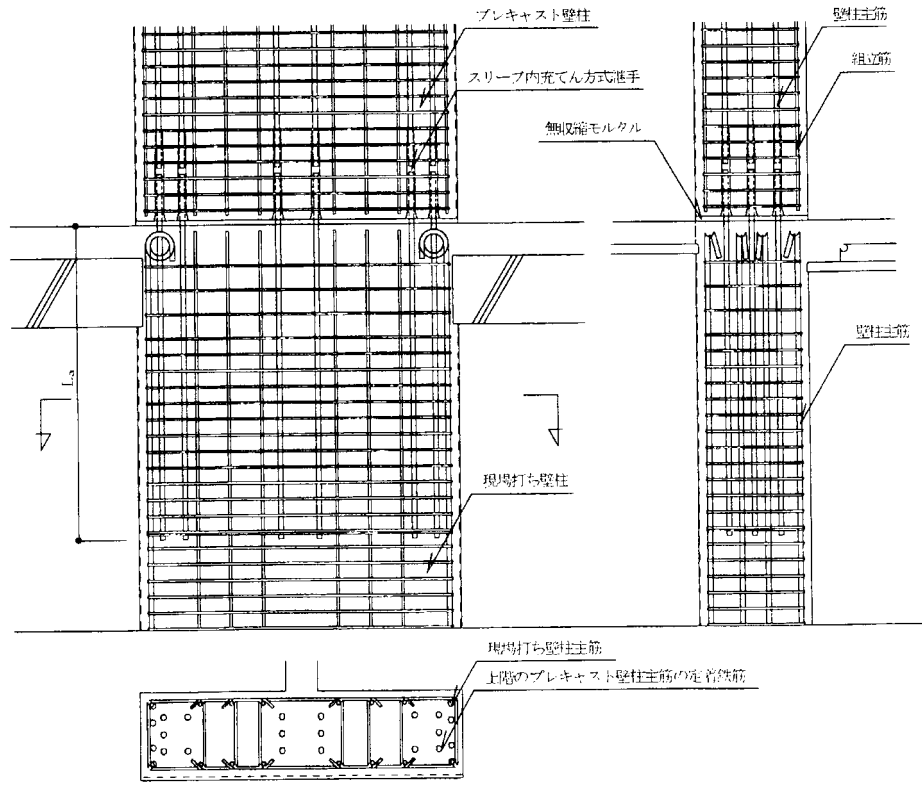
ページ	項番号	行数	誤表示	正表示	備考
43	解表 4.3.1		$(s \cdot t)/3$	$(s \cdot t/3)$	
64	6.1 節(3)  6.1 節 解説(4)	8	剛節架構を有する建築物で、  剛節架構を有する建築物は、	張り間方向に剛節架構を有する建築物で、  張り間方向に剛節架構を有する建築物は、	
86	(e)	下 6  下 2	$_{xy}=(N_c+N_w+N_{MX}+1/3 \cdot N_{EY})/(b \cdot D \cdot F_c)$  $N_w$ : その壁柱に取り付く直交壁の軸方向力のうち、壁柱の曲げ耐力に係る軸方向力(N) (算定方法は、7.6 節(1)項を参照)	$_{xy}=(N_c+ N_{MX}+1/3 \cdot N_{EY})/(b \cdot D \cdot F_c)$  (削除)	
94	解図 7.3.2	(c)の標題	2 階での耐力壁の全体曲げ降伏	2 階での耐力壁のせん断破壊	
122	7.8 節(2)	上 4	$p_{we}$  $_{wy}$	$p_{whe}$  $_{wh}$	
142	(9)	上 13	$F_{ir}=F_B(A_c/A_j)$	$F_{ir}=F_B (A_c/A_j)$	
187	解 図 10.2.4		(右スラブ内ボイド材の角部が字状に欠き込まれている)	(図の差し替え)	別掲
188	解 図 10.2.6		(主筋の180度フックが 状になっている) (各鉄筋の折り曲げ部が 字状に欠き込まれている) (右スラブ内ボイド材の角部が字状に欠き込まれている)	(図の差し替え)	別掲
189	図 10.3.1		(各鉄筋の折り曲げ部が 字状に欠き込まれている) (右図プレキャスト梁右立ち上がり部が 字状に欠き込まれている)	(図の差し替え)	別掲
191	解 図 10.3.2		(各鉄筋の折り曲げ部が 字状に欠き込まれている) (右図プレキャスト梁右立ち上がり部が 字状に欠き込まれている)	(図の差し替え)	別掲
193	図 10.4.3		(各鉄筋の折り曲げ部が 字状に欠き込まれている) (右下寸法線の折り曲げ部が 字状に欠き込まれている)	(図の差し替え)	別掲

196	図 10.4.9		(各鉄筋の折り曲げ部が 字状に 欠き込まれている)			(図の差し替え)			別掲
330	3)(2) 表	R L	階	Qu	Qu / Qun	階	Qu	Qu / Qun	
			4	57338	1.47	4	53251	1.36	
			2	66838	1.47	2	61292	1.34	
			1	70758	1.47	1	54616	1.13	
344	9.3 1)	上 8	$f_r F_{r-F B}(A_c/A_l)$			$f_r F_{r-F B}(A_c/A_l)$			
		上 15	× 700=464,380			× 1800=601,200			
		上 16	$f_r F_{r-F B}(A_c/A_l)$ =30 × (464,380/421,200) =33.08			$f_r F_{r-F B}(A_c/A_l)$ =30 × (601,200/421,200) =35.84			
		上 17	$f_r F_r=33.08$			$f_r F_r=35.84$			
		上 18	$f_r F_r=33.08$			$f_r F_r=35.84$			

以上

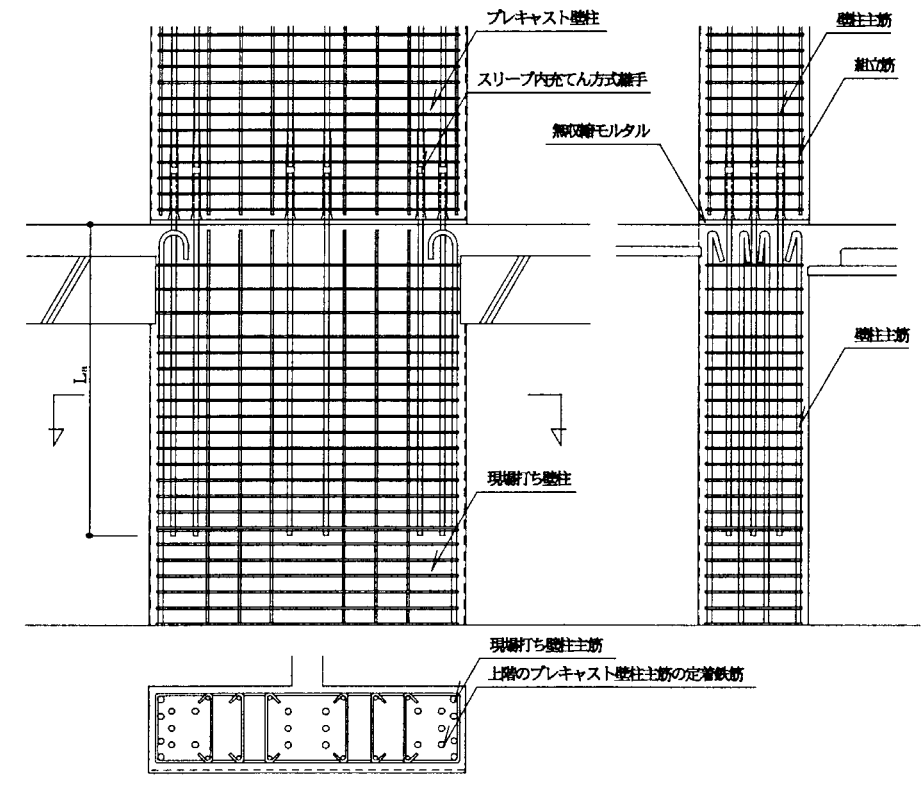
		図
別掲	誤	
	正	

誤



別掲

正



別掲	誤	
別掲	正	
別掲	誤	
別掲	正	

別掲	誤	<p><math>b/2</math> 以上(水平直線長さ)</p> <p><math>b</math></p> <p><math>L_2</math></p>
	正	<p><math>b/2</math> 以上(水平直線長さ)</p> <p><math>b</math></p> <p><math>L_2</math></p>
別掲	誤	<p>2階壁柱 (プレキャスト壁柱)</p> <p>耐力壁</p> <p>張り間方向2階 プレキャスト梁</p> <p>ピロティ壁柱 (プレキャスト壁柱)</p> <p>ピロティ壁柱主筋の定着長さは 計算による。</p>
	正	<p>2階壁柱 (プレキャスト壁柱)</p> <p>耐力壁</p> <p>張り間方向2階 プレキャスト梁</p> <p>ピロティ壁柱 (プレキャスト壁柱)</p> <p>ピロティ壁柱主筋の定着長さは 計算による。</p>